

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	小 濱 聖 子【論文博士】 (比較社会文化学専攻 平成22年3月単位修得退学)	<p>本論文は、日本近世の禅僧である白隠慧鶴の思想構造について解明を試みたものである。その仏教思想史上における重要性にも関わらず、これまで、白隠に対する関心は、ほとんどの場合、健康法としての身体修行や禅画などに限定されてしまい、彼の思想に対する研究業績は未だ蓄積されているとは言い難い状況である。そのような中で小濱聖子氏の本学位論文は、白隠の禅思想の全体像を明確に示したという点で評価できる。</p> <p>小濱氏の白隠思想の理解を端的に特徴付けるならば、白隠の修行と悟りをめぐる思想の中心軸としての無限の「循環」を的確に指摘したことであり、それを白隠の漢文著作をはじめとするテキスト解釈を基盤として解明したことであると言えよう。</p> <p>本論文の第1部をなす第1章と第2章では、これまで十分には解明されてこなかった漢文著作『四智弁』に基いて、白隠の修行が、時間的な推移としては、1見性体験(「さとり」体験)、2観照三昧 3公案参究、4末後一句(伝法)・衆生救済として構造的に捉えられる。そして、これらの四智は漸進的な過程でありつつ、それぞれが、法界体性智という究極的な悟りの智慧の同時的な顕現でもあり、それ故に修行と悟りの循環と言い得ることが指摘される。さらに、第2部では、第1部で解明された白隠思想の構造が、どのようなかたちで具体的な修行の場面であらわされていくのかが、「報恩」(第3章)、「戒」(第4章)、「念仏と禅との比較」(第5章)という観点から解明される。これらの諸章においても、丁寧なテキスト解釈に基づいて説得的な議論が展開されている。</p> <p>審査委員会の席上では、各審査員によって小濱氏の論文の白隠思想の研究史上における貢献が確認されるとともに、論文表現としての不備、説明や論理的展開の不十分な箇所をはじめとする修正必要箇所が指摘された。</p> <p>これらに対して修正が適切になされたことが確認され、公开发表会が開かれた。公开发表会で、小濱氏は論文の概要について適切に発表し、会場との質疑応答も的確であった。語学力をはじめとする学力についても最終試験において確認がなされた。以上から、博士(人文科学)、Ph.D. in Ethics の学位を認める。</p>
論文題目	白隠の修行観	
審査委員	(主査) 教授 高 島 元 洋	
	准教授 三 浦 謙	
	助教 中 野 裕 考	
	教授 内 藤 俊 史	
	東京大学 教授 頼 住 光 子	
インターネット 公表	<input type="radio"/> 学位論文の全文公表の可否 ( 可 ) <input type="radio"/> 「否」の場合の理由 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-radius: 50%; height: 100px; margin: 10px 0;"></div> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	